

# 長畝ふるさと通信

【2011年5月号】

## ■ 5月は田植えです！

4月の種まきから約1ヶ月が経過しました。立派な苗のできあがり。いよいよ田植えのシーズン突入です。組合の田植えは朝7時から夕方6時まで、5台の田植機がフル稼働して1日約7haほど田植えをします。春の日差しは結構強く、最後にはみんな真っ黒に日焼けした顔に白い歯がくっきりと光るようになります。



## ■ 田植えの一日



● あさ7時、ビニールハウスから苗をトラックに積み込み、田んぼへと出かけます。今日もいい天気。空は真っ青に晴れ渡り、白い雲が金北山の頂をかすめて流れていきます。



● 田植機に苗を積み込み、おもむろに田んぼへと進入、まっすぐなあぜ道に沿ってゆっくりと丁寧に田植えを始めます。カチャカチャと苗が植わっていく音を背中越しに聞きながら、まっすぐ前を見て機械を進めます。30aの田んぼを植えるのに1時間強、苗箱約60枚を使います。田んぼの中に目を向けると、田植機の前をおたまじゃくしやアマガエル、姫アメンボ達が気持ちよさげに泳いでいます。



● 休憩時間、畔に寝っ転がって空を眺めています。お日様がまぶしく、心地よい風が草の香りと一緒に鼻をくすぐります。ヒヨドリのさえずりがサラウンドで聞こえ、蛙の合唱が合いの手を入れてきます。なんとも平和を感じるひとときです。

● となりでは田植えの終わった田んぼでお父さんが補植をしています。補植とは機械植えしたあとをひと株ひと株見て、植わってないところや植え付け数の足りない苗にフォローする根気のいる作業です。田んぼの中を腰をかがめた姿勢で何往復もして苗を植えていきます。少しでも収量を上げたいという百姓魂のあらわれです。頭が下がります・・・



● 夕方6時、気がつけば夕日が沈みかけていました。植えたばかりの苗はまだ弱々しく見えますが、一週間もたてばシャキッと田んぼに根を張ります。「立派なお米に成長してくれよ～」と願いつつ後始末を終えて7時前に帰宅。晩酌を少し多めにやるといつの間にかうとうとして・・・気がつけば翌朝5時。この繰り返しです。

### ■ 23年産米の作付はこうなりました。

- ① 5割減減コシヒカリ 45ha(みなさんから食べていただくお米です)
- ② 8割減減コシヒカリ 2.4ha(タレントの里田まいさんとつくる「里田米」など契約栽培です。)
- ③ 無農薬無化学肥料栽培コシヒカリ 1.4ha
- ④ 5割減減こしいぶき 23.7ha
- ⑤ 直播コシヒカリ 1ha(種もみを直接田んぼに播いて栽培します)
- ⑥ 5割減減こがねもち 12ha
- ⑦ 在来コシヒカリ 2.8ha(BLではなく、昔からのコシヒカリで、契約栽培です)
- ⑧ 転作大豆 9.5ha

※直播コシヒカリ以外は全て「朱鷺と暮らす郷認証制度」に沿った栽培をしています。

### ■ みなさんのお米は十分ありますからご安心下さい！

東日本大震災は日本の農業に大打撃を与えました。一時はお米もパニック状態でしたが、ここへ来て落ち着きを取り戻しつつあります。日本人にとってお米と水は生きていく上で欠かせません。私たちは安心・安全・美味しい、そして持続可能なお米づくりをこれからも大切にしていきたいと考えています。そしてそれを支えてくださるみなさんに第一にお米をお届けしていきます。来月には新米のご案内をしたいと思えます。私たちのお米づくりに賛同していただけるより多くの方々をお待ちいたしております。